



西幼だより

羽島市立西部幼稚園
令和4年1月18日 No. 18
園長 安藤賢治

発する言葉に“願い”を乗せて！

ことばの風景 宮澤章二

子供がどんなに大きくなっても
青年になり 独立しても
その子が家に帰って来たとき
「おかえり」と 親は言ってもいい

いつまでも 言ってもいいのだ
ひとこと ただ「おかえり・・・」と
けれど 通例 父も母も

この世から消え去ってしまうのは
子供たちより ずっと早い
それが この世の決まりだから
「おかえり」と 親が言える時刻の
そして「ただいま」と 子が答えられる時刻の
ことば に込められた宇宙の重さ・・・

秋風に熟した柿の实のように
なにげない重さで光ることばたちが
人間の世界にはあふれていて
取り交わされることをよるこんでいて
親から子へ伝えられる 家という場所は
「おかえり」のひとことで明るくなる
「ただいま」のひとことで暖かくなる



◆西部幼稚園の特徴の一つが、「園までの送迎」です。毎日微笑ましい時間です。

「いってらっしゃい」・・・子どもの表情は様々で、振り向かず走っていく子、手を離さない子ともあれ、一日のスタート。・・・「おはようございます」

「おかえり」・・・あれほど楽しかった一日も、お迎えの時間になると、待ちどおしい園児たち。

*先生たちからも、一日の様子が伝えられて、ますますハッピー。・・・「また、明日」

～親（大人）の言葉に、背中を押されたり、包み込んでもらったりしています～

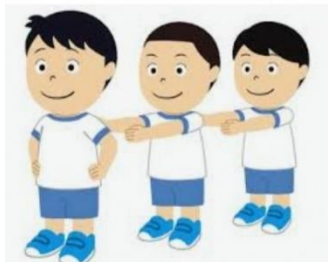
言葉には、不思議な力が！

★新たな“発見”でした！

皆さんご存じの 「前 ならえ」

（始業式でなでしこ組が手本に）

*どんなイントネーションで？ *声色は？



・・・！
前～ならえ

私自身の経験では、

➤キリっとした口調の号令。
“そうしろ！”という命令。

★でも、幼稚園は違ったのです。

・・・♪（表現の限界：子どもに確認を）

➤“さあ、そうしましょう”という確認。
合図を出す先生も子どもも嬉しそう。
～さすが、なでしこさん。ひまわりさんも
たんぽぽさんも真似してみてね～

<お知らせ>

・PTA 奉仕作業（役員さんによる）

~~2/24木~~ → 3/10木

・なでしこ組「親子遠足」

3/4 金「徒歩&お弁当」（詳細は後日）



子どもは
未来から
使者である

※ご紹介したい「岐阜立志教育支援プロジェクト」より

～ 2008 (H20) 年 羽島から始まった子どもたちの「夢・志」支援プロジェクト ～

アマゴとサツキマス

岐阜市教育長 水川 和彦



清流長良川は、郡上市の大日ヶ岳に源を発し伊勢湾へと注ぐ、日本が誇る美しい川の一つです。夏になれば多くのアングラーが竿を出し、鵜飼の篝火が水面に映える、人の暮らしや文化とともにある川です。150kmに及ぶ流域には魚種も多く、イワナ、アマゴ、アユ、アジメドジョウ、カジカ、ウグイ、カワゴイなど、10種類を超える魚名がすぐに思い浮かびます。

さて、この長良川には、サツキの花が咲く季節になると、太平洋からサツキマスという幻の魚が力強く遡上します。銀色に輝く美しいこの魚は、海の魚ではありません。実は、奥美濃の源流で生まれ育つ渓流魚のアマゴが海に下り、およそ2年後に、再び源流へと遡る、サケのような習性を持つ魚です。

サツキマスはアマゴと全く同じ魚ですが、渓流で育ったアマゴの何倍もの大きさになり、さらに、顔つきも体の模様もまるでサケのようなたくましい魚に変身します。

皆さんは、渓流で一生を過ごすアマゴのうちの、どんな個体が海を目指すと思われますか？故郷にとどまることをよしとせず、海に下るアマゴだから、さぞ、大きく、勇気があるように思えます。しかし、実はその逆で、海に下るのは群れの中で小さく餌も十分にとれないアマゴなのだと言います。



アマゴ

秋に産卵したアマゴは、孵化し、群れをつくって生活します。しかし、実際には、強くて大きいアマゴが真っ先に餌を食べどんどん大きくなるのに対し、小さくて弱いアマゴはその場所においても餌にありつけません。そこで、競争に勝てないアマゴは、仕方なく餌の多い場所を求めて川を下るのだそうです。

川を下れば下るほど、餌は格段に豊富になります。海に出ればさらに狭い縄張りなどないので、自由に動き回ることもできます。ただ、アマゴを狙う外敵も数千倍に増えます。さらに、淡水から海水へと変わることから、体を環境に適應させなければなりません。パーマークといわれる楕円の模様が銀毛といわれる模様になるのはその証拠だそうです。そして、この広い海でいくつもの経験をして、ひ弱だったアマゴは、たくましいサツキマスになり、産卵のため、再び、川を遡って源流を目指すのです。

私たち大人は、子どもたちに、「迷ったら困難な道を選べ！」と語ります。「勇気を出せ！」とも言います。困難に立ち向かう子になってほしいからです。ただ、誰もが初めから大きな勇気や夢を持てる子であるとは限りません。迷ったり、悩んだり、時にはくよくよしたりすることも少なくありません。私はそれでもいいのだと思っています。ただ、このサツキマスのように、「ほんの少しでも前に進むこと」そして、「その新しい環境で一生懸命頑張ること」の積み重ねこそが、やがては信じられないほどの大きな力になっていくのだと思います。

子どもたちは故郷に育ちます。やがて故郷を離れる子もいるに違いありません。どこにいても、サツキマスのように、小さな冒険を重ねていける子になることを心から願っています。



サツキマス

“子どもは成長する” ～よりよく生きようと願っている～